

第10回長野県安曇野地域における公共交通システム構築のための検討会 会議概要

1	委員会名	長野県安曇野地域における公共交通システム構築のための検討会
2	日時	平成19年10月18日(木) 午後1時30分～2時40分
3	会場	安曇野市堀金総合支所 301会議室
4	出席者	奥山委員、三村委員(代)池田委員、清澤委員(代)鈴木委員、小岩井委員、耳塚委員、樋口委員、甕委員、尾台委員、二木委員、小平委員(代)宮澤委員、米倉委員、水谷委員、宮崎委員、曲淵委員、土肥委員、堀田委員、三澤委員(代)白澤委員、小林(善)委員、上手委員、土井委員
5	国出席者(委員以外)	石崎首席運輸企画専門官、皆川運輸企画専門官
	市出席者(委員以外)	二木企画政策課長、猿田課長補佐、上條係長、中山主事
	NTT出席者	峰村、矢沢、木内
6	公開・非公開の別	公開
7	記者	5人
8	傍聴	2人
9	会議概要作成年月日	平成19年10月29日

協 議 事 項 等

1	会議の概要		
	(1)	開会	(石崎首席運輸企画専門官)
	(2)	挨拶	(奥山教授)
	(3)	議題	(事務局)
			1. 試行運行状況について
			2. 観光ワーキンググループ開催状況について
			3. その他
	(4)	閉会	(石崎首席運輸企画専門官)
2	協議概要		
	1.	試行運行状況について(事務局より説明)	…資料1、資料2-1、資料2-2、資料3、資料5-1、資料5-2
	<	資料1	「試行運行状況」 事前配布
		資料2-1	『あづみん』利用者アンケート結果 事前配布
		資料2-2	『定時定路線』利用者アンケート結果 事前配布
		資料5-1	『あづみん』1回利用者アンケート(案)
		資料5-2	『あづみん』未利用者アンケート(案) >
	a)	資料1に基づき、この一か月間の試行運行状況が報告される。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・9月10日の運行開始から10月9日までに19日間の運行日があった。 ・合計で3,781人の利用があり、そのうち女性3,039人と約8割を占め、男性は699人であった。受付段階で未登録であった43人は不明としてある。 ・料金別で見ると、無料の利用者は18人、100円の方は839人、300円の方は2,924人であった。 ・区域別利用者数は、未登録の43人は引いて合計を出してある。合計3,738人となり、そのうち「うららカー」が運行されていた堀金地域が1,075人と最も高い数字であった。以下、穂高、豊科、明科、三郷の順である。 ・この時点までの1日平均乗車人数は199人である。これ以降で一番利用人数が多かった日は10月11日で273人、直近の1日平均は230人程である。 ・区域別利用登録数は、10月9日現在で20,851名であった。1か月前と比べると1,200名の増である。 ・乗車・降車場所ランキングでは、日赤病院など医療機関、スーパーマーケット、駅や温泉と 	

いった場所が上位を占めた。

- ・定時定路線の豊科・田沢線の1か月間の利用者は43人、穂高・明科線は49人と少ないが、穂高では通学定期券を購入して利用を始める方もいた。
 - ・明科のスクールバス兼用の定時定路線は、スクール利用の62人を含み合計120人の利用があった。一番多く利用した方は38回であった。
- b) 資料2-1に基づき「あづみん」利用者アンケートの結果等が報告される。
- ・「あづみん」利用者アンケートは、9月25日から28日の間、145人の方に協力をいただいたものである。調査員が車に同乗する形で調査を行なった。
 - ・女性が8割強と圧倒的に多く、年代は70、80歳代が中心であった。
 - ・利用時間帯は午前中に72.4%と集中している。
 - ・居住区は堀金地域が4割強を占めた。
 - ・利用回数は、初めての方が3割弱であったが、この時点でもう何度も利用しているという方も多数見られた。得られた回答の中でのトップは13回であった。
 - ・大部分の方が乗り継ぎを利用せず、直接目的地への移動であった。
 - ・乗り継ぎを利用していたのは実数で21人であったが、利便性が悪いと答えた方が38.1%に上った。JRとの接続の悪さ、時間がかかること、面倒などが理由であった。良いと回答されたのは14.3%であった。乗り継ぎの目的は6割近くが通院、買い物が1割強であったが、その他にも子供の送迎など多様に活用されていることが分かった。
 - ・予約については「気にならない」、「ほとんど気にならない」で8割近くを占めた。予約が気に入らない方は比較的少ないようだ。予約の難易度も「簡単」、「概ね簡単」との回答が合わせて8割を超え、利用者の負担は少ないといえる。電話が通じにくいとの意見も9件あった。
 - ・オペレーターの電話対応は「良かった」「概ね良かった」を合わせて73.8%で、「やや悪かった」が6.9%であった。運転手の対応については、「良かった」「概ね良かった」が約76%に上った。
 - ・乗合での利用は大多数の方が「気にならない」「ほとんど気にならない」と回答した。
 - ・料金については「安い」「概ね安い」を合わせると88.2%となり、多くの方から好評を博している。
 - ・外出機会・行動範囲については、「変わらない」が多かった。始まったばかりであること、乗り継ぎ利用がまだ少ないことが要因だと思われる。
 - ・「あづみん」の良い点は、「家まで迎えに来てくれる」が6割近くを占めた。
 - ・今後の利用については「使う」という方が88.3%と圧倒的であった。「使わない」は一人もいなかった。「あづみん」以外の交通手段を持たない方は約63%であった。
 - ・「あづみん」についての意見としては33件寄せられており、時間の延長や運行間隔の短縮、土日の運行の希望といった要望や、電話がかかりにくかったといった意見があった。
- c) 資料2-2に基づき「定時定路線」利用者アンケート結果等が報告される。
- ・9月の終わりから10月の初めに、ドライバーに依頼し利用者に用紙を配ってもらい、回収するという方法で行なった。
 - ・定時定路線は利用者がまだ少ないが、どちらかというと女性の方が多い。
 - ・年代はスクールバス利用の方にアンケートしている関係から10代が多く、それ以外では70代、80代の方の利用が多い。
 - ・利用時間帯はデマンド交通とは異なり午後が多い。居住区もスクール兼用のため明科が一番多い。
 - ・利用回数は複数回の方が3分の2を占めている。
 - ・利用目的は通勤が一番多く、料金については「高い」「やや高い」と回答した方は一人もいなかった。
 - ・今後の利用についても「使う」方が91.7%と圧倒的に多い。
 - ・乗車場所は、専用駐車場から乗る方はまだ少なく、徒歩で最寄のバス停まで行って乗車するパターンようだ。
 - ・意見・要望としては、乗り継ぎ便の新設や増便などの希望が出された。
- ・なお、アンケートは今後11月と来年1月も同様に行ない、結果を報告する予定である。

座 長：資料 2-1 で「あづみん」利用者アンケートの結果について報告をいただきました。続いて資料 2-2 で定時定路線利用者アンケート結果を報告していただきました。これらについて質問、確認事項等々ありましたらお出しいただきたいと思います。アンケートではなくても、各々の立場で利用者からの意見を聞いたということがありましたら、この場でお出しいただきたいと思います。

それでは未利用者等に対するアンケートについて、事務局から報告をお願いします。

- d) 資料 5-1、5-2 に基づき未利用者等アンケートについて説明がされる。
- ・運行が始まったばかりということがあるかも知れないが、登録されていてまだ一度も使われていない方、一度しか使われていない方がいる。その中から無作為に抽出をして、合計 200 名の方にアンケートを行いたい。
 - ・資料 5-1 は 1 度しか使ったことのない方に対するアンケートの案である。
 - ・質問内容は、性別、年代、居住地域、また 2 回目以降利用されない理由、利用していただくにはどうすればよいか等である。
 - ・1 度使っていただいた方へのアンケートなので、前回の使用目的も尋ねる。予約に関すること、オペレーターや運転手の対応など、9 月末に「あづみん」に同乗して行なったヒアリング調査と同じような内容である。
 - ・資料 5-2 は、登録はいただいているが一度も利用されていない方へのアンケート案である。
 - ・このアンケートの主な内容は、利用されない理由、不安な点、利用方法が分からない場合の説明方法、周囲の方の利用状況、意見要望等である。
 - ・この内容で賛同いただければ、10 月末から 11 月の初めにかけて郵送による調査をしたい。

座 長：事務局から資料 5-1、5-2 として、1 回だけ利用して後利用していない方に対するアンケート、登録しているけれども全く利用していない方に対するアンケートということでご説明をいただきました。たたき台ですので皆様から意見をお聞きして修正等していきたいと思います。何かありましたら。

尾台委員：穂高地域ですが、地域審議会で出された意見等について申し上げます。「デマンド」という言葉の意味が、まだしっかり理解されていないように思われました。地域内のお年寄りの方に「JR の駅に回ってくると良いのだが」という思いが多々あるようです。「デマンド」の意味をもう少し高齢者の方に分かりやすく、理解していただけるまでしっかり PR していただくことによって、利用者が増加していくのではないかと思います。

利用の増加への働き掛けとして出た意見ですが、JR には無人駅がいくつかございます。それを市のコミュニティーセンターのようにして活用し、高齢者の方の駅利用促進を図ることによって、情報を得たり乗り降りをして、結果デマンドももっと利用できるのではないかと。こんな意見が出されております。

もう一点は登録についてです。現在は個人で登録をしているわけですが、商店や病院、温泉施設、美術館等多くの人が集まる施設がいろいろあります。そのような場所自体が登録の対象になれば、ある程度の人数が集まった場合にはそこからまとめて連絡していただくということも可能ではないか？ このような意見も出されました。以上です。

事務局：PR 等をもっと行なえというのはもっともお話です。様々な機会を捉えて今後も積極的に PR をしていきたいと思っています。

駅のご意見につきましては、参考にさせていただきます。

個人登録ではなく場所や施設でというお話ですが、子ども病院さんから具体的にご相談をいただいております。入院されていたりということで、長期間使いたいというお話で、病院を住所地にして登録していただくというご案内をさせていただいております。あるいは福祉施設で、何十人という単位でまとめて登録していただいたようなケースもございます。そのような形を広く活用していただきながら、利用登録も増やす方策を取っていきたくと思っています。よろしくをお願いします。

座 長：今日の資料には出していませんが、堀金の事例では最初の月の利用者が2倍、つまり約200%になるのに約6か月かかっているそうです。2か月目が130%、その後150%、170%と増えていき、最初の月の利用者の倍に近づく。目標にしている420人に近づくスピードは、堀金のケースからすると約半年くらいでしょう。他の地域ですと約3か月で倍になるようなところもあります。これは地域ごとに違いますし、一番は口コミということですので、いろいろな意味で注目をいただくということですね。

登録データなどを見ていただくと一目瞭然ですが、利用はしないが登録は進むと、その中で一定割合の人が利用してくださると。これはもう歴然としておりまして、やはり裾野が広がって情報が地域に伝わっていき、利用はしないけれども登録はしておこうかという素地が出来上がることが大事だろうと思っております。

定時定路線と「あづみん」で明確に違うのは利用者の年齢構成です。「あづみん」の場合は後期高齢者、80代が最も多く、定時定路線ではどちらかというと前期高齢者、まだしっかり歩ける方というデータが出ています。利用状況も「あづみん」は午前集中型、定時定路線は午後というかたちになっています。そのあたりについて、万能的な交通手段を地域に走らせることはなかなか難しいことです。今回安曇野ではその両方に挑戦していますので、利用者特性をしっかりと見定めて、JRの駅との連携だとか、それぞれに魅力のある情報発信を考えていくのも大事なことだと思っています。事務局と相談して進めていきたいと思っています。

宮澤委員：これは堀金村時代に私が経験したことです。堀金は9地区あるのですが、村の担当の方が各地区へ来てくれて説明会を行ないました。そういったことを今回も地区ごとにやったのでしょうか。

9月から10月頃になると敬老会が各地で行なわれます。利用者を見ても高齢者の方が多いわけで、そういったところへ市の方から出向いて説明等を行いPRしたのでしょうか。PRの仕方についてお聞きしたいのです。例えば説明会を行なっても、高齢者の方は夜に出席するのがなかなか面倒なところがあると思いますが、それでも家族の方が来て聞いたりしますし、あるいは説明会を行なうこと自体がPRとなって市民の関心が高まるということがあると思います。どのようなPRを行なっているのでしょうか。

事務局：PRの仕方ですが、今回どのような方策を中心を取ったかといいますと、地区ごとにお年寄りの皆さんが集まる機会がありましたらご連絡をいただいたり、こちらから問い合わせたりして、直接その場にこちらから出向いてご説明する機会を何度か設けさせていただくというものです。

私どもが一番に考えましたのは、目に触れて見ていただく機会を少しでも多くしたいということで、直接高齢者のいらっしゃる世帯に郵便でご案内状等をお送りするという形を取らせていただきました。今日もとある地域から直接個別に説明に来てもらえないかという話をもらいましたので、日程を合わせ打合せさせていただき予定を取らせていただきましたが、機会がある毎に捉えて対応していきたいと思っています。

座 長：合併して広がっていますので、旧堀金のように非常に細かくやるには時間がかかると思います。事務局の方には一つひとつ丁寧にとすることで対応していただこうと思っています。

宮崎委員：質問です。堀金地域は以前からデマンドを行なっていたので利用者や登録者数が多いということは分かるのですが、他の4地域の中では明科が利用者も登録者数も多いというのは、他と何か違う部分があるのでしょうか？どのように認識されているのでしょうか。

あと、乗車場所ランキングを見ると、豊科駅と明科駅は多いということですが、穂高駅はランキングに入っていません。もし例えば駅で降りてから交通手段がないといった場合、初めて乗車するときに電話で登録を依頼すればすぐ乗れるような形が取れないでしょうか？

もう一点、乗り継ぎについてです。乗り継ぎが不便だという調査結果はありますが、どこからどこへ行くために乗り継いだのかというデータがありません。今後乗り継ぎの改善を考える上で、データがあれば是非出していただきたいと思っています。

事務局：明科地域が何故多いかということについてですが、これは推測の域を出ないのかもしれませんが

が、明科地域は市営バスが走っていたのが運休になったということがあります。これは豊科地域の「ぐるまるくん」も同じですが、「湯多里山の神」あたりが目的地として多いのはそのあたりが反映されているのではないのでしょうか。今まで使ってくださっていた方がこちらに乗り換えてくださっていることがある程度数字に表れているのかなと思います。昔の堀金が始めたときもそうでしたが、それまで福祉バスなどがあっても、公共交通システムを使う機会がなかった地域はまだ少ないという状況だろうと考えております。

駅での利用につきましては、定時定路線は当然予約なしで乗れます。デマンドにつきましても先程のデータの中で 43 名の方が未登録でも利用されたように、実際に登録していただいなくても利用することは出来ます。ただ、電話での登録の際に時間がかかったり間違いがおきやすかったりということがあるので、よろしければ事前登録をしてから利用していただきたいとお願いしています。登録なしでも利用は出来ますので、そのあたりも含めて説明などしていきたいと思っております。

乗り継ぎの改善等のデータというお話ですが、この後のその他のところで説明しようと思っておりました。今、社協さんが主体で運行委員会というものを開かせていただいています。利用者の代表として 5 地域から一人ずつ出いただき、運行 4 事業者の方からそれぞれ社長さんと、委託事業のシステム関係で NTT から 2 人、市の方から 2 人の 13 名で、先日も第 1 回運行委員会を開きました。この検討会の委員の方の中からも 5 名の方に入らせていただいております。それまでいただいているクレームなど全部その場で出し、今日のアンケートの結果なども出させてもらって、今の段階でどのようにやっていけば良いのか議論しているところです。

その中で、乗り継ぎの方に受け付けセンターで長い間待ってもらっているという事例もありました。それに対して、基本的には今は 1 時間間隔で、堀金では 30 分間隔での運行をしているのですが、乗り継ぎで待っておられる方がいる場合に、近くで空いている車両があればそれを「臨時便」ということでどんどん回して利便性を高めてやってくれというお話を、事業者の皆さんからいただいています。そのように改善方法等を探りながら運行を続けていきたいと思っております。

宮崎委員：実際に駅などで、登録されていなくても対応するということがありますが、30 分前までなら当日登録しても乗れるというようなことをもう少しアピールしていただいても良いように思います。あと、先程、施設で登録できないかという話がありましたが、例えば宿泊施設に泊まった方が駅まで、宿泊施設からの連絡で乗車するような形というのは取れるのでしょうか？

事務局：それは登録のルール上、物理的には可能です。ただ、何度もご説明しましたとおりタクシーとは違います。個別にその目的のためだけに行くわけにはいかないの、例えば電車の時間に間に合わせてくれ、というお約束での運行は出来ません。そのあたりをご理解していただいた上であれば、利用していただくことは可能です。そこを利用される方にもお間違いのないよう注意していただきたいと思っております。

宮崎委員：もちろんタクシーではないので時間という部分は重要だと思います。しかし例えば、宿泊施設などで実際に自分のところの車を使って送り迎えをしているケースもあり、このシステムを使えば自家で送迎をしなくても良いというアピールも出来ると思うので、そのあたりも汲み取ってもらえればと思います。

小岩井委員：今の意見に関連しますが、私ども運送事業者としましては、登録は安曇野市にお住まいの個人の方という前提でデマンド交通が始まったと認識しているのですが。今言われました宿泊施設等ということになりますと、まずルール作りを先に議論するべきではないかと思えます。運送業者にとっては死活問題ですから、それはちょっと順番が違うのではないかという気がしています。それから未利用者の方から「安曇野市に住所があれば良いのですか？」との質問を受けました。他にも例えば東京に住所があって、こちらにある別荘に来ている方は使って良いのか？など、私どものサイドとしては利用者が増えるのは良いことだと認識しているのですが、そのあたり何かお考えがありましたらお願いしたいと思います。

事務局：これは実際道路運送法の 21 条や、4 条による許可になりますので、もし理解が誤っていれば国

交省さんに助言をいただければと思いますけれども、基本的には誰でも乗れるバスと同じだと認識しています。安曇野市内にお住まいである方、あるいは安曇野市内の施設等をご利用いただく皆様については基本的には使えるだろうと思っています。

ですから例えば、市内に家のある家族の息子さんが東京の大学に行っている、あるいは名古屋にお嫁に行った娘さんがお盆に帰って来る、というような場合には、その住所で登録しておいでご利用くださいというご案内をしています。ある程度の許容範囲はあると思っているのですが。

今ちょうど観光の問題等を議論させていただいていますが、実際デマンドを使うのはある程度時間に余裕を持った方ということになります。先程のお話の宿泊地にお泊りになった方が実際に移動されるのは、ほとんどがお帰りの電車とか、あの施設に何時までに行きたいなどというケースだと思われるので、そういう場合には適さないのではないかな、と思います。使い勝手などを良く理解していただいた上で、誤解のないように利用していただきたいというPRは引き続きしていかなければならないと思っています。

座長：おそらく小岩井社長が言われているのは、ペンションや民宿、宿泊施設に利用促進を呼び掛けるのなら、まずルールを作ってやった方が良いでしょう。

既存のこの「あづみん」というのは、安曇野市の行政区内に居住していることが大前提になるということは、おのずと皆さんにご理解いただいているのではないかと思います。ただしそういう中でも、例えばこども病院に2、3か月いらっしゃるといった方々が、こども病院を住所地として登録して利用されるというのは大いに結構でしょう。いろいろなケースが考えられると思いますので、こういう場合にはどう対応するのか、こういう場合には利用出来るんだということを、暗黙知ではなく一つひとつ丁寧に決めていかないと、オペレーターさんや運転手さんが困ることになります。今日出された意見は一度事務局に受けていただいて、どういう対応をしていくのか次回しっかりお答えをいただいたほうが良いのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

二木委員：アンケートの結果についてですが、居住地区のパーセントを見ると三郷が3.4%なんです。その原因をちょっと考えますと、まだ三郷は福祉バスが動いているんです。三郷にはお風呂があるんですが、グループで行ってちょっと休んでくるかというような場合に福祉バスを利用しているのだと思います。そのあたりは各地区でどのようにやっているのでしょうか。

事務局：福祉バスのお話は以前にもこの検討会でご意見、ご質問等出たと思いますが、取り敢えず今年度は今までどおり動かすというお約束になっております。

ただ、このデマンドの状況を見つつ、福祉バス本来の目的に合うのであればそのまま継続という方向性も必要でしょうし、こちらのデマンドでそのニーズは充分受けられるということであれば、その部分は改善をしていくという必要性もあるだろうとご説明をさせていただいております。運行してまだ1か月しか経っていませんので、そのあたりを正確に掴むにはまだ時間をかけなければいけないと思っておりますが、いずれにしても方向性としてそのような考え方を持っております。

ちなみに三郷地域だけでなく、堀金地域や穂高地域でも福祉バスの運行はしています。堀金でデマンドのニーズがこれだけになってきたのには、ある程度の時間も必要だったと思っておりますし、利用の仕方等も含めて慣れていただくことが一番必要です。あるいは先程もある方から、地域性とか農作業の忙しさなども影響しているというご意見もいただいております。

二木委員：私は三郷の二木地区に住んでいますが、デマンド交通あるいはこのことについて、行政の方から何の説明もないのですよ。私が検討委員会に加わっていますので、皆さんこういうことがありますから利用してくださいという話はするんですが、多分行政の方からは、老人クラブの会合でデマンドの話はしていないと思います。三郷の職員の人はここにいないので分かりませんが、そんな風に感じます。他の地区の方も、各地区に回って言うことはなくて、広報等でお知らせをしているかということなのですが、そのあたりは安曇野市としてどうなっているのですか？

事務局：事務局としてご説明させていただきますと、三郷地域には社協さんが各地区でやっていらっし

やるお年寄りの「サロン」という場がありますが、今回試行運行を始めるに当たってほとんどの地区を回ってご説明させていただいています。他の地域と比較すれば、三郷が一番歩いている地域だと思っております。前回のアンケートを取らせていただいたときにもほとんどの地域を回りました。ただ、先程もお話がありましたように、それだけで充分だとは思っておりませんし、実際にご連絡等いただければ、こちらとしてはたとえお一人でもお二人でも、いくらでもご説明の機会を考えておりますので、是非大いに連絡をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

座長：その他、地区ごとにいろいろな状況があると聞いております。事務局はもう少し時間とともに満遍なく出向いて説明をしたいということですので、地元で要望があれば事務局の方に伝えていただければと思います。他にありましたら。

甕委員：利用者の方の要望等は今回のアンケート結果から大体分かるのですが、現場の運転手さんなどの要望など何かありましたらお聞かせいただきたいです。私も「あづみん」と「定時定路線」を利用して、「定時定路線」の運転手さんから直接話を聞いたことがあります。豊科田沢線で、田沢方向に向かう場合非常に交通量の多い時間帯で、安曇野市役所の停留所が踏み切りを渡ってすぐのところにあるので停めにくい。市役所の敷地の中にも入れるようにした方が良いのではないかとすることが一点です。それから穂高明科線で、高橋節郎記念美術館前が非常に道幅が狭く歩道もないので、停留所も狭い路側帯でお客さんが乗り降りしなくてははいけない。利用者の安全を考えて、もう少し停めやすいようにならないかということです。そのようなご意見など事業者の皆さんの方からお聞きになっているようでしたらお願いしたいです。

耳塚委員：高橋節郎のところのことは運転手から聞いておりました。あと、駐車場から出る人が少ないということです。

一番困るのは明科の駅前です。松電のバスやら生坂のバスやら、みんな同じ時間に来ていて、しかも松電のバスは1時間、2時間も前から停まっている状態で、通行に支障が出ます。また利用者からも「あづみん」が見えないというようなことで、多分勘違いだったと思うのですが6時の便が行かなかったのではないかと話もいただきました。あの車はバスのように蛍光灯で行き先が表示されるようにはなっておらず、特にこの頃は日が短くなってきているので、多分利用者が分からなかったのではないかと思います。そんなわけで今のところ一番混乱しているのは明科の駅前です。そのあたりを改善していただければ、乗客の乗降については状況に応じて安全を確保するように運転手もしていると思っております。そういった改善できるところは是非市の方にも協力をお願いしたいと思っております。

小岩井社長：料金箱のことですが、是非欲しいです。

あと、今時点で同時利用者数もなく、15人乗りバスだとちょっともったいないので、例えばそれを堀金地域に回した方が有効なのではないかと思います。ニーズが増えてきた時点で元に戻すというような、臨機応変の対応も必要ではないかと感じています。

事務局：先日の運行委員会でもいろいろな意見をいただいておりますし、順次改善できるところからしていきたいと思っておりますし、引き続きいろいろなご意見等いただきながら調整をしていきたいと思っております。

座長：これは法案の面からも、停留所をすぐ右から左にというわけにもいきませんので、事務局の方で整理をしてまた次回お答えしたいと思っております。

鈴木委員：細かい部分なのですが、資料5-2の未利用者アンケートの関係です。このアンケートの一番のポイントは問3の①「利用されない理由は何か？」ということで、当然これからの検討が必要な部分だと思います。提案というほどのことではないのですが、これだと選択肢が1から4限定みたいになってしまいますので、これに「その他」というような項目を入れて、理由を幅広く尋ねた方が良いのかなと感じましたので付け加えました。

事務局：ごもつともです。早速加えさせていただきます。

座 長：あと、1回利用者アンケートが裏表になっていますが、裏表を取り違えることが多いので、出来れば表だけでまとめた方が良くと思います。事務局の方で再検討をお願いしたいと思います。

それでは議題のその他ということで、ご報告をお願いいたします。

事務局：先程運行委員会のお話をさせていただきました。そちらは社協が主体で運行、運営をさせていただいていますが、そこで出た様々なご意見等も事業者さんや地域の代表の皆さんとお話をさせていただき、出来るところから改善していくという形を考えております。今後の運行等の仕方につきましても、先程もお話しましたがアンケートなど取っていきます。そのようなものもこの場でお示しさせていただきながら、ご意見をいただき改善していきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

座 長：運行委員会は定期的に関われ、また随時報告をいただくこととなります。何か運行委員会に対する要望等ありましたらお出しいただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。それでは議題（2）観光ワーキンググループ開催状況ということで、事務局から説明をお願いします。

2. 観光ワーキンググループ開催状況について（事務局より説明）…資料3、資料4

<資料3「観光ワーキンググループ会議内容」

資料4「平成18年度安曇野市観光実態調査結果（抜粋）」 事前配布>

a) 資料3に基づき第1回の会議内容が報告される。

- ・出された意見は、山岳観光の問題、観光協会、観光客マーケット、市内観光・交通の問題等であった。
- ・今後はこの中から更に課題等を整理し、検討会の立場としてどのようなものが出来るか、方向性を探っていきたいと考えている。

b) 資料4の説明がされる。

- ・前回の観光ワーキングで使用したもので、昨年の検討会で調査をした結果を再度見やすく整理したものである。
- ・最後のページは、登山の状況を知りたいという意見をいただいたため、登山口の駐車場の状態や18年度の山岳観光の状況などを資料として載せたものである。

座 長：まだ開催は1回ですが、これから随時開かれてまいりますので、皆様方にも逐一詳細な報告をさせていただこうと思っております。昨年実施させていただきました実態調査で、安曇野周辺の観光の特徴が明確になっております。これをいかに地域の新しい観光の振興に結び付けていくか、何らかの成果は生んでいきたいということで、今事務局には相当な量を分析等していただいております。今日はお出し出来ませんが、来月もということで、相当急ピッチで進めていきたいと思っております。

それでは議題3「その他」ということでご説明をお願いいたします。

3. その他 シンポジウム開催について（事務局・北陸信越運輸局上手委員より説明）…資料6

<資料6「『地域公共交通の活性化・再生に関する』シンポジウム」チラシ>

- ・国交省の方でも、地域公共交通に関しては非常に力を入れており、今年5月には新しい地域公共交通活性化再生に関する法律が作られ10月から施行されている。来年度の予算要求も地域の取り組みを支援するような体制を整えているところである。
- ・そういう中、地域の取り組みを紹介したり、公共交通を良くする方法を一緒に考えていただく機会を設けたいと思っていたが、ちょうど安曇野市が、技術的にもかなり献身的な取り組みでデマンド交通を構築されるということがあり、市や長野県、本検討会の座長である奥山先生のご協力を得てシンポジウムを開催することになった。
- ・11月15日、豊科ふれあいホールにて開催する。
- ・内容は、国土交通省から新しい法律について、また地域公共交通の活性化などに携わっている

専門の担当者より体制について説明させていただくとともに、奥山先生から安曇野市の事例など新しい取り組みについて講演していただくというように考えている。

- ・また、パネルディスカッションとして、それぞれの地域での取り組みを紹介し、課題や問題点、情報交換や意見交換をしていただこうと考えている。

事務局：引き続き事務局からの提案ですが、次回の第11回検討会の日程を11月16日金曜日、会場はこの会場、時間は本日と同じ13時30分からということをお願いしたいと思います。

座長：まず国交省主催のシンポジウムということで、当地の安曇野市で、豊科ふれあいホールにおいて11月15日木曜日の1時半から4時半まで開催するというごさいます。次年度に向けての目玉政策として地域公共交通の活性化の予算を取っていただいているということです。私も今回、安曇野での10万都市規模での導入ということで、課題等整理しながら、どういう可能性があるのかということで説明させていただきたいと思います。

今日も午前中、福岡の八女市と奈良の宇陀市の議員の方が15、6名で研修視察にいらっしゃいました。地域がこの交通政策に苦心しており、どうしても看板の塗り替え程度の交通政策の会議しか出来ていないような実情の中、様々な問題を抱えている地域も多くあるだろうということで、このシンポジウムには全国から多くの方がいらっしゃると思います。是非皆様方にも参加していただきたいと思います。

その翌日になりますが、午後1時半から第11回検討会を開催させていただきたいということです。何か確認・質問等ありましたらお出しいただきたいと思います。

よろしいでしょうか。それでは一応、今日用意していた議題が全て終わりましたので、事務局にお戻ししたいと思います。

事務局：本日は皆様にスピーディーな議事運営をいただきましてありがとうございました。大変お忙しい中ご出席いただき、活発なご意見ご要望をいただきましたので、今後またいろいろ検討してまいりたいと思います。本日はありがとうございました。

以上